

FAO Newsletter

2008年9月
Vol. 30



今月の統計

世界の
肥満・過体重人口
2005年 16億人
(栄養不足人口の2倍)

発行：(社)国際農林業協働協会(JAICAF) www.jaicaf.or.jp 〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階 TEL：03-5772-7880 Email：fao@jaicaf.or.jp

Contents

目次

- 飢餓人口、食料価格の高騰により5,000万人増加
- 食料価格高騰で注目を浴びる「世界食料デー」
- ミャンマーのサイクロン被害者に追加援助を要請
- FAO、ペルーの寒波に緊急支援

- キャッサバ：食料、燃料への可能性
- 西アフリカで緊急コメ生産プログラムを開始
- 土壌劣化が世界的に進行
- 「さらなる緑の革命」を

- 新しい土壌データベース
- 気候変動が漁業に大きく影響
- 森林モニタリングに焦点を

食料価格

Food Price



飢餓人口、食料価格の高騰により 5,000万人増加



© FAO/Alessandra Benedetti

▲FAOはブルキナファソで種子と肥料の配布を開始

ディウフFAO事務局長は、7月3日にブリュッセルで行われた欧州議会（EP）で演説し、食料価格の高騰により、2007年には栄養不足人口が約5,000万人増加した、と述べました。バイオ燃料の拡大や人口増加、気候変動による生産量の低下などが結びついて起こった食料・エネルギー価格の高騰により、開発途上国では肥料や種子などの農業投入財の価格が急騰し、食料の増産が妨げられています。特に低所得食料不足国（LIFDCs）（中国とインドを除く）では、2007年に続き2008年も穀物生産の減少が懸念されているうえ、食料輸入額が2000年の水準の4倍に跳ね上がっています。

FAOは現在、35カ国で農業投入財の供与による食料生産支援を行っており、今後も拡大していく予定です。食料不足国には、予算面での支援のほか、農村のインフラ整備により小農が

市場機会の恩恵を受けられるような中・長期的な農業投資も必要です。（7/3、ローマ/ブリュッセル）

関連ウェブページ

FAO Initiative on Soaring Food Prices :
www.fao.org/worldfoodsituation/isfp
プレスリリース：2007年に飢餓人口は約5,000万人増加：
www.fao.or.jp/media/press_080703.pdf

食料価格高騰で注目を浴びる 「世界食料デー」

急激な食料価格の高騰により飢餓人口の増加が懸念されるなか、FAOは今年の「世界食料デー」（10月16日）のテーマを「世界食料安全保障：気候変動とバイオエネルギーの課題」と決めました。深刻化する気候変動やバイオ燃料が食料生産に与える影響について世界的な関心を高めることを目的としています。

世界食料デー当日は、FAOローマ本部において、加盟国や一般市民の出席のもと開会式が行われるほか、シンポジウムやコンサートなども予定されています。また10月19日に今年3回目となるマラソン「Run for Food」が4,000人以上の参加によりローマで開催されます。なお、10月14-17日には世界食料デーに合わせて世界食料安全保障委員会が開催され、世界の食料をめぐる課題が話し合われます。（7/7、ローマ）

日本では、コンサートやアイスホッケーの試合などのチャリティイベントを行う予定です。

関連ウェブページ

High-level Conference on World Food Security: challenges of climate change and bioenergy : www.fao.org/foodclimate/hlc-home
World Food Day : www.fao.org/wfd2007/index-wfd2007
TeleFood : www.fao.org/Food
FAO日本事務所：イベント情報：www.fao.or.jp/event.html

緊急支援

Emergency Relief



ミャンマーのサイクロン被害者に 追加援助を要請

5月にサイクロン「ナルギス」に襲われたミャンマーの被災地では、最近の調査によると水田の63%に当たる約78万ha、種子の備蓄の85%が被害を受けており、コメの収穫は約55万



©FAO/Piera Biasotti

▲FAOは被災農民に対し、水田の耕作に不可欠な水牛600頭を配布した

トン減少するとみられています。また漁業者も10万人以上が被災し、ボートや漁具、養殖池が被害を受けました。FAOは、災害後すぐに農畜産業と漁業の復興

プログラムを実施し、ヤンゴンやエヤワディにおいて被害の大きい11地域の約4万世帯に対し、高収量品種の稲や肥料、耕運機、運搬用家畜、家畜の飼料やワクチン等を供与しましたが、今後さらに支援を拡大するため、3,350万ドルの追加支援要請を発表しました。追加支援では、小農の食料増産のための農業投入財の配布や、家畜疾病の拡大を防ぐためのワクチン・キャンペーン等を行う予定です。(7/17、ローマ)

なお、FAOミャンマー事務所長には本年5月に今井伸氏が就任し、本事業の陣頭指揮をしています。

関連ウェブページ

Needs assessment for Cyclone Nargis affected areas in Myanmar : www.fao.org/fileadmin/templates/tc/tce/pdf/Myanmar-NA-Main-Report_-_plus-Annex1_2_-_Lieberg_.pdf
 FAO and emergencies : www.fao.org/emergencies/tce-home/index-emergencies

FAO、ペルーの寒波に緊急支援

FAOペルー事務所は、季節外れの寒波「El Friaie」に襲われ家畜への被害に苦しむペルー高地の貧しい農民に対し、約1万8,000頭のアルパカを治療するための緊急支援として、3万6,800錠の駆虫薬や抗生物質、ビタミン剤を支給しました。

「El Friaie」は、降霜、降雪、雹を伴う気象現象で、作物や、アルパカの生息する高山牧草地を荒らします。今年は従来の6月に比べて数ヶ月早い3-4月に到来し、アルパカの飼育で生計を立てている小規模農家が特に大きな被害を受けました。今回の支援物資は、食料がない状態が続く病気にかかりやすくなったアルパカを対象としたもので、FAOの専門家がペルー国立農業安全センターの技術者や地方農業普及員の協力により配給しました。(7/31、ローマ)



©FAO/Marc Vandersmissen

▲リャマやアルパカが生息する高山牧草地では「El Friaie」の被害が特に大きい

関連ウェブページ

FAO's Animal Production and Health Division : www.fao.org/ag/againfo/home/en/index.htm
 FAO and emergencies : www.fao.org/emergencies/tce-home/index-emergencies

食料安全保障

Food Security



キャッサバ：食料、燃料への可能性



©FAO/Giulio Napolitano

▲キャッサバは途上国で生産される作物の中で4番目に多い収穫がある

FAO、国際熱帯農業センター (CIAT)、国際農業開発基金 (IFAD)、国際熱帯農業研究所 (IITA) および各国の研究機関が参加する「国際キャッサバ開発戦略」

の下に設けられた「国際キャッサバ・パートナーシップ」が、ベルギーのガントで、キャッサバに関する初の国際科学者会合を開催しました。アフリカ、アジア、ラテンアメリカの熱帯で広く栽培されているキャッサバは、105カ国で10億人の食料となり、場所によっては1日のカロリー摂取量の3分の1をまかっています。また、最も安価なでんぷん原料の一つとして、バイオ燃料を含む300以上の工業製品に利用され、2006年の世界の生産量は2億2,600万トンに達しました。しかしその多くは、今なお農業投入財や市場へのアクセスに恵まれない土地で生産されています。会合では、栽培等の条件に恵まれない貧困農民への技術や資材の支援、流通ルートの開発の重要性が確

認されました。(7/25、ローマ)

関連ウェブページ

Global Cassava Development Strategy : www.fao.org/ag/agp/agpc/gcdfs/
 Global Cassava Partnership : danforthcenter.org/gcp21/
 Starch market adds value to cassava : www.fao.org/ag/magazine/0610sp1.htm

西アフリカで緊急コメ生産プログラムを開始

西アフリカ諸国では、都市化に伴い、キャッサバやプランテン（調理用バナナ）に比べて調理が簡単で長期保存が可能なコメの消費が増えており、2006年には消費量1,600万トンのうち600万トン近くが域外から輸入されました。また、食事の準備が楽になることから女性の就学や社会進出にも寄与しています。かつては、政府による種子や投入財への支援や技術指導、かんがい、流通の整備が行われていましたが、1980年代の構造調整により農業予算が大幅に削減され、生産が需要に対応できないままになってきました。さらに最近の世界的な食料価格高騰により、今年3月には一部の国でコメ価格が昨年同時期の倍になるという事態を迎えました。FAOは、食料価格高騰に対する緊急プログラムの一つとして、アフリカ稲センター

(WARDA)をはじめとする様々な機関やNGOとの連携のもと、種子生産支援、かんがい整備などのコメ生産プログラムを開始しました。(7/15、ローマ)

関連ウェブページ

FAO's Initiative on soaring food prices : www.fao.org/worldfoodsituation/isfp/

土 壤

Soil



土壌劣化が世界的に進行 世界人口の4分の1に影響



©Will Critchley

▲土壌浸食が進み、地面が固化したケニアの土壌劣化地

FAO、国連環境計画 (UNEP)、国際土壌照会情報センター (ISRIC) の共同報告書によると、この20年間で、世界人口の4分の1に当たる15億人の暮ら

しを支える土地で土壌劣化が進行しています。これは世界の可耕地の20%以上、森林の30%、草地の10%に当たります。土壌劣化は土地の生産性を低下させ、移住や食料不安を引き起こし、生活基盤やエコシステムに損害を与えるだけでなく、生息地が変化することによって生物多様性も損なわれます。1994年に193カ国が「国連砂漠化対処条約」に批准したにもかかわらず、土壌劣化は悪化しています。一方で、かんがいや植林などにより、19%の耕地および10%の林地・草地で、土地の持続的な利用や生産性の向上が報告されています。政府や市民社会が、土壌劣化の問題を優先課題として再認識することが求められています。(7/2、ローマ)

関連ウェブページ

Global assessment of land degradation and improvement : lprlada.fao.org/lada/index.php?option=com_docman&task=doc_download&gid=58&Itemid=157

「さらなる緑の革命」を 土壌を保全し食料増産につながる保全型農業

2050年には90億を超える人口に対応するため食料生産の倍増が求められているにもかかわらず、耕作地の20%で土壌劣化が進行しているといわれる危機的状況に対し、持続的な穀物増産と土壌保全に向けた投資に関する会合に集まった36カ

国約100名の政府代表や農業者、研究者等が、「保全型農業 (CA)」の重要性を確認しました。CAは、土壌劣化を引き起こす耕起を最小限にとどめ、現状の植生のもとで種子を直播きする農法で、30年前に導入され、現在は世界中の1億haの農地で実践されています。会議では、南アメリカの大規模農園、アフリカの小農、温帯アジアの高生産システムなど様々な条件下で実践され、収穫と収益につながっている事例が報告されたほか、肥料や農薬、労働力の投入を抑えつつ収量を上げることが可能であることも紹介されました。(7/24、ローマ)

関連ウェブページ

FAO Conservation Agriculture Website : www.fao.org/ag/ca/

新しい土壌データベース 気候変動の影響緩和と食料生産に寄与

世界の土壌に関し、土地の生産性に関する情報とともに、土壌の炭素固定能力に関する情報が改良された新しいデータベースが作られました。温室効果ガス吸収への取り組みは、これまで植林をはじめとする「地上」炭素固定が中心でしたが、土壌の炭素貯蔵量は大気と植物の貯蔵量を合わせたものよりも大きく、土壌のちょっとした変化が温室効果ガスの排出や吸収に大きな影響を及ぼすとして注目が寄せられています。FAOはこのデータベースをもとに、土壌の炭素貯蔵量が最大の地域を特定したり、劣化した土壌が貯蔵できる炭素量が分かる「世界カーボン・ギャップ地図 (Global Carbon Gap Map)」を作製しました。新しいデータベースは、食料やエネルギー、生物多様性をめぐる土地利用問題への対応にも活用されることが期待されています。(7/21、ローマ)

関連ウェブページ

World soils database : www.iiasa.ac.at/Research/LUC/luc07/External-World-soil-database/HTML/index.html
New database for soil information : www.fao.org/nr/water/news/soil-db.html

漁 業

Fishery



気候変動が漁業に大きく影響 漁獲量減少の可能性も

FAOや全球海洋生態系動態研究計画 (GLOBEC) 等の共催によりローマで開かれた会議において、気候変動が漁業に与えている様々な影響が報告されました。大西洋では深海まで及ん

でいる海水温の上昇により、温水域の魚介類が極洋へ広がるとともに冷水域の魚介類の活動範囲が狭まっていることや、水面からの蒸発量が増えている海面近くで塩分濃度が高まる一方で、高緯度地域では溶けた氷河の流入などにより塩分濃度が下がっていること、さらに海水の酸性度の上昇により珊瑚礁をはじめとするカルシウムを多く含む生物に影響が出てきていることが明らかにされました。世界で水産業に従事する人は4,200万人にのぼり、その多くが途上国の人々です。FAOは、世界の食料供給と収入創出に大きな役割を果たす漁業に気候変動が及ぼす影響に、今後も注意を払っていきます。(7/10、ローマ)

関連ウェブサイト

Symposium website : www.confmanager.com/main.cfm?cid=846

林業

Forestry



森林モニタリングに焦点を



©Maimone/Freebv

▲フィリピン、バンパンガ川流域で樹木調査を行う政府の技術指導者と林業従事者

先のG8サミットで途上国における森林伐採による温室効果ガス排出を減少させる取り組みの促進が打ち出され、森林が気候変動への対応に果たす役割に注目

が高まっているなか、FAOは加盟国や関係機関とともに、2010年に発表される「世界森林資源評価 (FRA) 2010」に向けた取り組みを進めています。FRA2010は、世界の過去30年間の森林の増減に関する基礎的情報を収集するほか、森林モニタリングのための国際的な仕組みづくり、リモートセンシング画像へのアクセスの容易化、全ての国によるモニタリング・評価・報告能力の向上を主な目的としています。FAOは、2000年にスタートした「国家森林モニター・評価プログラム (NFMA)」やFRAなどの取り組みを通して、各国がこのような技術と現地調査を組み合わせ、森林減少の状況をより正確に把握し対応していくための能力向上に寄与していきます。(7/16、ローマ)

関連ウェブサイト

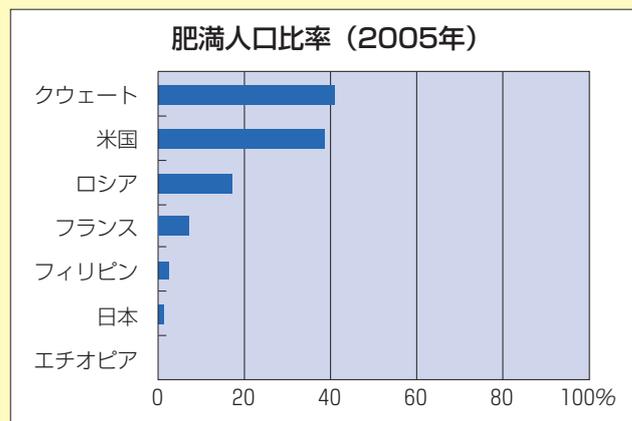
Global Forest Resources Assessment 2010 : www.fao.org/forestry/1191/en/

9月の主な活動予定

※青字は日本国内

- 9/9 アフリカ・デーシンポジウム (東京・国連大学) UNU、在京アフリカ外交団共催、横山FAO日本事務所長がパネリストとして参加
- 9/15 Press Conference on World Food Day activities, Ministry of Foreign Affairs, Rome, Italy
- 9/25 国連ライブラリー講座—FAOとその資料— (東京・国連大学) UNIC主催

今月の統計をよむ



世界では、8億以上の人々が栄養不足に苦しんでいる一方、栄養不足人口の約2倍の16億人が過体重 (BMI = Body Mass Index 25%以上) であり、そのうち4億人が肥満 (BMI 30%以上) です。WHOによれば、過体重および肥満は健康上のリスクをもたらす過剰ないし異常な脂肪の蓄積であり、様々な健康上の問題に結びつきます。

肥満人口比率 (15歳以上の総人口に占める肥満人口の比率) を国別にみると、慢性的な飢餓に苦しむエチオピアでは0.1%に過ぎませんが、クウェートや米国では4割が肥満です。日本の肥満人口比率は1.6%で、国際的に見れば、先進国としては、きわめて低いと言えます (ただし、過体重人口は、22.6%になります)。

最近では開発途上国においても、飢餓問題に直面する一方、肥満・過体重人口が増える傾向にあり、飢餓と肥満という2つの問題についての対応が必要となっています。

(FAO日本事務所長 横山 光弘)

テレフード募金にご協力をお願いします

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

郵便振替口座

00140-1-29732

(FAO飢餓撲滅草の根募金)

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。



メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

ニュースレターの配布について

本紙は、季刊誌「世界の農林水産—FAOニューズ—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。

※ニュースレターは指定場所でも配布しています。